

府中市健康地域づくり審議会  
第3回熟年元気づくり分科会 報告書

- 1 日 時：平成25年5月30日（木）10時から11時30分
- 2 場 所：市役所2階第二応接室
- 3 出席者：中野悦成（分科会会長） 原田弘子（分科会副会長）  
重森由枝（分科会委員） 前原裕吉（分科会委員）  
藤本命壮（分科会委員） 佐藤真二（分科会委員）
- 4 欠席者：寺岡 暉（職権委員） 宮口英昭（分科会委員）

5 概要

- (1) 開 会
- (2) 分科会長あいさつ
- (3) 議 事

「熟年世代の生きがいづくり」について

① 関連資料の説明

最初に、府中市総合計画作成時の市民意識アンケートを加工した資料の説明を行った。

次に、前回までに出た意見や新たな提案を、「高齢者の生きがいとなる働き方の創出」「元気高齢者へのインセンティブ」「高齢者の居場所づくり」の3つに分類して説明した。

「高齢者の生きがいとなる働き方の創出」では、シルバー・ベンチャーや人材バンク、放課後児童クラブの補完など、高齢者が働く場所の創出について、他地域や府中市での例を挙げながら説明を行った。また「元気高齢者へのインセンティブ」では、要介護度を改善した施設や介護保険を利用しない人へのインセンティブについて、東京都品川区や京都府などの例を紹介しながら説明を行った。最後に「高齢者の居場所づくり」について、常設型サロンを例に挙げ、大府市の提言を紹介しながら説明した。

② 質疑・意見交換

【主な質疑、意見】

- お年寄りの生きがいってというのは、就労の問題と、趣味・文化活動の面と、それから居場所づくり、この三つの分野があるんじゃないかと思う。
- 居場所づくりについて、小さいところでもいいんですが、それを数やっていくっていうことが大事ではないかなという気がする。
- ぐるっとバスがせっかくあるんですから、バス停で降りて来られるとか、そういうような場所をどんどんどんどん使っていけば、ぐるっとバスの利

用率が低い低い言われるんだったら、そこを利用するなど両方で考え方を  
変えていけばいいという気がする。

- トップになる人をつくっていかなくてはいけない。人づくりをやってい  
かないとどうしても途中でこけてしまうんですよね。
- リーダーを見つけるにはコンペがやっぱりわかりやすいかなと思う。そ  
の中心、名前を出して応募して来られる方っていうのは、ある一定程度の  
人にされるんでしょうから、そうするとリーダー候補者みたいなのがわか  
るかもしれない。
- リーダーは高齢者でなくてもいい。
- 居場所をたくさんつくることに当たって何か提言できたらいいのかな  
という気がする。本来生涯学習がやるべきことなんですけど、なかなか難  
しくてできない。すぐ予算が、となつてなかなかできていかない。
- いきいきサロンとかシルバーとか、名前を変えたら少しは行ける。男性  
というのは名前に妙にこだわる。
- 退職したときにいかに社会デビューしてもらおうか。タイミングを失った  
らもうだめ。
- 旧府中市内では結構荒れた畑や田んぼがある。そういうところをみんな  
に貸し出してというところをやっぱり推奨していくということをしな  
い。
- 荒れてる田んぼをシルバーでというのはどうか。
- シルバーは募集をかけるだけで、一般のやりたい人に65歳以上とか条  
件を付けてやったらどうか。
- 空き店舗だと貸してくれないんですが、農業だったら農業委員会が指導  
できる。
- シルバーへ頼んで草を刈ってもらっているところがあるが、シルバーが  
刈らなくても地域の方が自分たちで刈って自分でつくるということにな  
れば一番いい。そしたら近くの人がそこで収穫をしたりできる。
- 介護認定を受けてる人でサービスを使わない人について、何かのインセ  
ンティブについてがあるべき。
- 新聞へ団地の高齢化問題が毎日のように出ているが、府中市もそういう  
ところが結構あるような気がする。そこのお年寄りがどうされてるのか知  
らないが、そういうところの悩みというのも聞いて、反映していかなけれ  
ばならないのではないかという気がする。

#### (4) 閉 会